

農作物技術情報 第2号 畑作物

発行日 令和8年4月23日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当(電話 0197-68-4435)

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

◆ 小麦

かび毒汚染の予防及び低減対策として重要な赤かび病の防除時期を迎えます。赤かび病の防除は、時期を逃さず行うことが重要で、防除適期に降雨が続く場合でも、短い晴れ間を利用するなどして、確実に防除を行うことが必要です。

- ① 小麦の防除適期を逃さないよう、小麦の生育状況を常に把握する（出穂期、開花始、開花期）。
- ② 赤かび病菌の感染を防ぐため、適期に2回の防除を必ず実施する（1回目は、小麦の開花始から開花期までの間（写真1参照）。2回目はその7～10日後）。
- ③ 耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤の連続使用は避ける。

小麦の出穂期は平年より1～4日早いと予測されます。ほ場ごとに小麦の生育状況を常に把握・記録しましょう。

今後の気象状況によっては生育が早まる場合がありますので、減数分裂期以降の後期追肥や赤かび病防除について、適期に作業できるよう、早めに準備を進めましょう。

◆ 大豆

排水対策を早い時期から実施してほ場条件を整え、適期播種に努めましょう。

また、夏期の高温が予想されています。排水対策を万全に行い、干ばつの影響を受けにくい栽培を行いましょ。

小麦

1 生育状況

融雪後、気温が高く経過し、出穂期は平年より1～4日程度早いと予測されます。

今後は作業が水稻などと重なることから、減数分裂期以降の追肥、赤かび病の防除等は、生育状況を確認しながら計画的に行います。今後の気象状況によっては生育が早まる場合がありますので、表1を参考に生育をよく確認し、適期防除できるよう早めに準備を進めてください。

表1 県内各地域の小麦の出穂期及び開花期の予測日

地域名	品種	調査日	幼穂長 (mm)	平年値予測		平年値+2℃予測	
				出穂期	開花期	出穂期	開花期
雫石町雫石	ナンブキラリ	4/13	2.0	5/16	5/26	5/14	5/23
紫波町上平沢	ゆきちから	4/14	4.5	5/13	5/24	5/9	5/19
八幡平市野駄	ナンブキラリ	4/13	2.0	5/19	5/29	5/15	5/23
花巻市外台	ゆきちから	4/6	3.0	5/10	5/21	5/6	5/16
北上市相去町	ナンブコムギ	4/6	1.0	5/15	5/24	5/11	5/19
奥州市衣川	ナンブキラリ	4/14	7.5	5/8	5/18	5/5	5/14
一関市	ゆきちから	4/12	6.0	5/8	5/19	5/6	5/16
軽米町	ナンブコムギ	4/13	3.0	5/16	5/27	5/12	5/22

※ 出穂期及び開花期は、幼穂測定日及び幼穂長、各地域の最寄りのアメダス地点の日平均気温（平年値および平年値に2℃加算した気温）による予測日。（H24 古川農試参考資料）。なお、ナンブキラリはナンブコムギの予測式を代用して予測。

2 赤かび病の防除について

(1) 薬剤の選択

赤かび粒発生抑制及びDON含有濃度を低減する効果が高い薬剤を選択する。また、耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤の連続使用は避ける。

(2) 適期防除

赤かび病の防除は適期に2回以上行うことを基本とします。赤かび病の防除適期は下表のとおりです。

表2 赤かび病防除の実施時期

回数	実施時期
1回目(必須)	開花始～開花期
2回目(必須)	1回目の防除時期の7～10日後
3回目(2回目防除後に曇雨天が続く場合)	2回目の防除時期の7～10日後



【開花始】

開花を始めた時期

【開花期】

1穂について数花開花を認めたものが、全穂数の40～50%に達した日

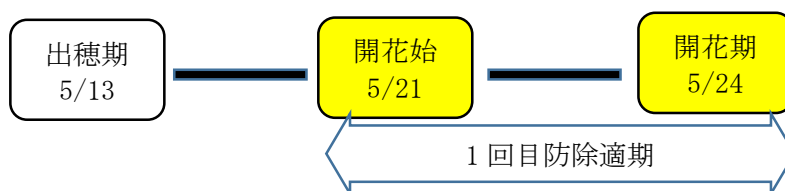
写真1 小麦の開花期

(3) 出穂期から開花始及び開花期までの目安

出穂期から開花始及び開花期までの日数は概ね積算気温で変わります。平年並みの気温で推移した場合、出穂期の9～11日後が開花期になります(表1参照)。また、開花期の概ね3日前が開花始(開花を始めた時期、概ね出穂期の6～8日後)です。

出穂期以降は、ほ場毎に開花の観察をこまめに行い、開花始から開花期をしっかり把握・記録し、適期に防除しましょう。

【例】紫波町上平沢 ゆきちから ※平年並みの気温で推移した場合



(4) 散布後の降雨の影響

散布直後に降雨があった場合は防除効果の低下が認められましたが、散布後30分以降の降雨であれば防除効果の有意な低下は認められませんでした。このため、防除適期に降雨が多く、雨を避けて行うことが困難な場合には、短い晴れ間を利用したり、ごく弱い降雨の時に散布するなど、適期に散布することを優先して防除を実施してください。

(5) 赤かび病に罹病した穂の抜き取り

薬剤防除だけでは完全に赤かび病を抑制することはできません。成熟期前の穂が緑色の時期は罹病穂を識別しやすいので、ほ場を見回り、赤かび病に罹病した穂を抜き取ります。



写真2 赤かび病に罹病した穂

3 病害の発生状況

雪腐病は、融雪がやや遅かった県北部や県中部の一部ほ場で発生がみられました。また、コムギ縞萎縮病・ムギ類萎縮病の発生ほ場率は平年より低くなりました。

4 今後の管理

(1) 排水対策

ほ場の排水口や明渠の点検補修を行い、スムーズに排水できるようにします(写真3)。



写真3 明渠からの排水が確実にほ場の外へ流れるよう、排水口を掘り下げます。ゴミなどが溜まっていると、スムーズに排水できなくなりますので、点検し、取り除きます。

(2) 雑草防除

今年は全般に雑草の生育が早いので、雑草発生状況を確認のうえ、茎葉処理除草剤の散布を実施してください。ただし、使用時期が小麦の生育状況によって限定される除草剤もありますので、「穂ばらみ期」または「収穫45日前」まで使用できるものを選択して防除してください。

(3) 後期追肥の実施

減数分裂期以降の窒素追肥で、子実の充実とタンパク質含量の向上を図ります。生育量や品種によって追肥の有無、時期、量が異なりますので表4を参考にしてください。追肥の対応は、減数分裂期に生育栄養診断を行い、その結果に基づいて追肥量を判断しますが、地力を考慮し、ほ場にあわせた判断が必要となります。

表3 減数分裂期における生育目標値(上限値)と追肥対応

品種		ナンブコムギ (目標値)	ゆきちから (上限値)	銀河のちから (目標値)
診断項目	草丈(cm)	55~65	55	
	有効茎数(本/m ²)	450~550*	500*	600未満*
	葉色(n-1葉のSPAD値)	36~44*	47	55以上
指標・追肥対応	目標値(上限値)を超えるとき	追肥しない	穂揃期に窒素成分で2kg/10a	穂揃期に窒素成分で2kg/10a
	目標値(上限値)の範囲内のとき	減数分裂期に窒素成分で2kg/10a	穂揃期に窒素成分で4kg/10a ※水田転換1~2年目で堆肥を施用していない場合 4~6kg/10a	止葉抽出期~穂揃期に窒素成分で4kg/10a

注)*印は、追肥対応のための主要な診断項目。減数分裂期は、約半分の有効茎の止葉の葉耳が出た時期を目安とする。

(4) コンバイン・乾燥機の清掃・点検整備

かび毒産生を防ぐためには、適期収穫と速やかな乾燥作業が重要です。収穫適期を迎えたら速やかに作業できるよう、事前にコンバイン・乾燥機の清掃・点検整備を行きましょう。

コンバインや乾燥機の清掃手順をまとめたマニュアルがありますので、そちらを参考に準備してください。

～熟練者の知識・技能を活かした～ コンバイン機内清掃マニュアル（農研機構）

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/pdf/seisou_m_2712.pdf

乾燥機 メンテナンス作業安全マニュアル — 高所作業編 — ((一社)日本農業機械工業会)

http://www.jfmma.or.jp/data/kansouki_maintenance_manual_kousyosagyo-20210826.pdf

大豆

1 ほ場の選定

3作以上の連作ほ場、雑草の多発ほ場、排水不良ほ場への作付けは避けます。

2 過度な連作防止

過度な連作による病害虫の蔓延、地力の低下、雑草の多発などが問題となっています。マメシンクイガ、ダイズシストセンチュウ、黒根腐病などは、大豆の連作により発生リスクが高まる病害虫です。

また、大豆2作程度に対し、水稲2～3作程度が地力維持、病害虫対策の観点からバランスがよいという報告があります。堆肥の利用や輪作、水稲とのブロックローテーション等、長期的な展望を持って、計画的な土地利用に努めてください。

3 排水対策

大豆は初期の湿害が収量や品質に大きく影響する作物です。初期生育が順調であれば、その後の生育も良好で干ばつの影響も受けにくくなります。額縁明渠や弾丸暗渠等は、播種直前ではなくほ場が乾いている時期に余裕を持って行くと、排水効果はもちろん、播種前の整地作業等の準備もスムーズに進みます。

4 播種適期

播種期は、出芽時に晩霜の心配のない頃を播種早限とし、霜害の心配のない頃に収穫できる播種時期を播種晩限と設定します。概ね、県北部では5月中下旬、県中部では5月中旬から6月上旬、県南部では6月上中旬が播種適期となります。

5 適正な栽植密度の確保

畦間は70cm程度を標準としますが、中耕培土等の中間管理や、収穫に用いる機械の幅に応じて作業が効率的に行えるように設定します。品種ごとに好適な栽植密度とするためには、株間の調整が必要です(表4)。

表4 普通大豆の品種別栽植密度と播種量

項目	ナンブシロメ	リュウホウ	シュウリュウ
栽植密度(本/10a)	1万～1万2千	7千～1万5千	1万～1万5千
畦間×株間(cm)*	70×30～24	70×40～20	70×30～20
播種量(kg/10a)	2.5～3	2.5～5	3.5～5.3

注) *は、畦間を70cm、1株2本立てとした場合を示した(ユキホマレの狭畦密植栽培を除く)。

「リュウホウ」は、播種期により栽植密度を調整する(晩播ほど密植とする)。

表5 「リュウユウ」の地帯別播種適期及び栽植密度

地帯	播種適期(月/日)	栽植密度(本/10a)	播種量(kg/10a)
県北部	5/20～6/5	1万5千～2万	5.0～6.6
県中部	6/1～6/10	1万～1万5千	3.3～5.0
県南部	6/5～6/20	7千～1万5千	2.5～5.0

共通

1 肥料コスト低減に向けて

肥料や燃油などの生産資材は、高値で推移していますが、必要な資材まで安易に使用を控えると収量や品質に悪影響を与えてしまいます。このため、肥料については、土壌診断に基づく適正施肥、たい肥等有機物の活用、施肥量低減技術の導入、肥料銘柄の見直しや調達方式の改善等によりコスト低減に努めます。

岩手県では、肥料コスト低減に向けて下記のマニュアルを発行し、岩手県ホームページに掲載しています。是非一度、お手持ちのパソコンやスマートフォンから確認してください。

岩手県肥料コスト低減対策マニュアル（令和4年1月）

https://www.pref.iwate.jp/agri/res/projects/project_agri/page/002/004/581/hiryokusutoteigen0406.pdf

クマに御注意ください！

冬眠明けのクマが里山やまちに出てくる可能性があるため、警戒をお願いします。

1 クマに遭遇しないために

- ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
- ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール

2 出会ったときの行動

- ・ 背を向けて走って逃げない
- ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる

3 襲われそうになったら...

- ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

春の農作業安全月間 [4月15日]

「これくらい・・・」少しの油断が事故のもと初心忘れず安全作業

岩手県山火事防止運動期間 [2月26日]

山火事を起こすも防ぐも私たち

春先は野山が乾燥し、風の強い日が多くなります。

林野火災の多くは人為的な原因で発生していますので、野外での火の取扱いには十分注意しましょう。

次号は5月28日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用ください。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。